

中期目標の達成状況に関する評価結果

鹿児島大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)		
評価結果		
《概要》	3
《本文》	7
《判定結果一覧表》	15

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

鹿児島大学は、「鹿児島大学憲章」に基づき、我が国の変革と近代化の過程で活躍した先人の意志を受け継ぎ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、『進取の気風にあふれる総合大学』をめざす。その実現のため、以下の基本目標を掲げる。

「進取の精神」を有する学士の育成

鹿児島大学は、幅広い教養の厚みに裏打ちされた倫理観と生涯学習力を備え、「進取の精神」を有する人材を育成するため、学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るとともに、専門教育の質を保証するシステムを確立する。

大学の特色を活かした研究活動

鹿児島大学は、独創的・先端的な研究を積極的に推進するとともに、総合大学の特色を活かし、島嶼、環境、食と健康等の全人類の課題の解決に果敢に挑戦する。

地域社会の活性化に貢献

鹿児島大学は、知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域との連携を重視するとともに、各学部等の特色を活かした社会貢献を推進し、地域社会の活性化に貢献する。

国際的に活躍できる人材の育成

鹿児島大学は、アジア・太平洋諸地域との学術交流・教育交流を通じて、国際交流拠点としての機能を高め、国際的課題の解決に貢献し、グローバル化時代に活躍できる人材を育成する。

社会に開かれた大学

鹿児島大学は、地域に開かれたキャンパス環境を整備するとともに、社会への積極的な情報提供に努め、透明性の高い公正な大学運営とその改革を図ることにより、社会への責任を果たす。

本学は日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。本学の起源は、藩学造士館（1773年設立）にさかのぼり、明治以降に設立された第七高等学校造士館をはじめ、各種高等専門学校などを統合し、昭和24年（1949年）に新制国立鹿児島大学として発足した。現在、9学部10大学院研究科からなり、約9,000名の学部学生と約1,500名の大学院生（うち留学生約300名）が在籍し、これまでに約10万名の卒業生を輩出している総合大学である。

【個性の伸長に向けた取組】

「進取の精神」を有する学士の育成のため、鹿児島大学憲章に基づき「学生憲章」を制定したが、これは学生が主体的に作成した、全国初の取組であった。この大学憲章と学生憲章で謳った進取の精神の涵養を目指して、進取の精神チャレンジプログラム、進取の精神グローバル人材育成プログラム（P-SEG）などの取組を行った。

学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るために共通教育改革計画書をまとめるとともに、学術研究院の設置により共通教育と専門教育の質を保証するシステムを全学的に構築した。

また、山口大学との共同獣医学部設置、優秀な学生を継続的に確保するための入学者選抜方法の改善、大学院熱帯水産学国際連携プログラムなどの本学独自の取組を行った。

さらに、生涯学習を組織的に実践するため、平成25年（2013年）に日本の大学で初めて「生涯学習憲章」を定めた。

研究面では、先進医用ミニブタや先進的感染制御に関する研究など、卓越した研究を推進し、成果をあげ国際的に評価された。また、地域的特性である離島へき地の諸課題に対応するため、「国際島嶼教育研究センター」を設置し、多くの学際的かつグローバルな調査研究を進めた。

地域社会の活性化のため、平成 26 年度に採択された「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」で、「かごしま COC センター」を発足させ、自治体とも協働して地域課題解決に取り組み、その成果を取り入れた教育カリキュラムを構築した。

さらに、社会連携体制の整備を行い、ライセンス契約件数・収入の増加や地域貢献度ランキングの改善に繋がった。

グローバルに活躍できる人材の育成のため、国際交流拠点としての機能を整備し、日本学生支援機構や P-SEG 事業など、教育的、経済的支援を行い、海外への留学者数の増加に繋がった。

（関連する中期計画）

計画 1-1-1-1、計画 1-1-1-2、計画 1-2-1-1、計画 1-2-2-1、計画 1-3-1-1、計画 2-1-3-1、計画 2-2-1-1、計画 3-1-1-1、計画 3-2-1-1、計画 3-2-3-1、計画 3-3-1-1、計画 3-3-1-2

〔東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等〕

東日本大震災に際し、全学及びボランティア支援センターが学内で義援金を募集し、日本赤十字社へ寄付した（平成 26 年 3 月の九次募集までの総額 1,820 万円）。また、保護者家庭の被災状況に応じて被災地出身学生への授業料免除等の支援を実施した。

震災直後の平成 23 年 3 月から、医師、看護師、事務職員等からなる医療支援チームの派遣を被災地に派遣し（災害派遣医療チーム（DMAT）及び医療支援チームの派遣は、平成 23 年 3 月から 5 月まで 12 チーム延 94 名、平成 28 年 3 月までの総数は、46 チーム延 129 名）、現地の医師・看護師と連携し、避難所における住民の診療・健康診断活動等を行うとともに、大学院医歯学総合研究科講師を検索活動のため福島県の被災地へ派遣した。

水産学部附属練習船「かごしま丸」を救援物資輸送のため新潟港へ派遣し、九州の各国立大学から提供された段ボール 500 箱に及ぶ医薬品や医療材料を被災地へ提供した。

さらに、東日本大震災を契機に、「鹿児島大学災害ボランティア活動支援事業実施要項」を定め、災害ボランティア活動に係る流れを確立し、活動費の一部を助成した。その結果、平成 28 年 3 月までに 307 名の学生が東北地方の支援に参加した。また、毎年継続して報告会を開催した。

特定非営利活動法人「イーパーツ」と「リユースパソコン寄贈に関する同意書」を締結し、学生ボランティアを活用して約 100 台の再利用パソコンのソフト等の設定・入れ替えを行い、被災地の方々に活用してもらうため、東北地方へ配送した。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、鹿兒島大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
(Ⅰ) 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好			4	1
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好		1	2	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好		2	2	
(Ⅱ) 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	良好	1	1	2	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			2	
(Ⅲ) その他の目標	良好				
① 地域を志向した教育・研究に関する目標	良好		1		
② 社会との連携や社会貢献に関する目標	良好		2	1	
③ 国際化に関する目標	おおむね良好		1	1	

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 山口大学との共同獣医学部では、欧州獣医学教育認証機構（EAEVE）評価委員経験者による事前診断を受け、改善事項として指摘があった参加型臨床実習時間の大幅増に対応するための教育課程改正、動物病院の施設整備等を行っている。また、北海道大学、帯広畜産大学、山口大学及び鹿児島大学による獣医学教育の国際認証取得に向け、平成 29 年度に EAEVE による公式事前診断を実施することを決定している。

（中期計画 1-2-2-3）

個性の伸長に向けた取組

- 学生及び教職員が参加した学生憲章ワークショップや学生が組織した学生憲章成案作成委員会による草案作成等を通じ、学生が中心となり、平成 22 年度に学生の行動指針として学生憲章を制定している。また、学生憲章の趣旨に則り、平成 25 年度から学生自らが企画・運営・実施する取組を支援する進取の精神チャレンジプログラムを実施している。（中期計画 1-1-1-1）
- 平成 24 年度に山口大学との連携に基づき共同獣医学部を設置しており、両大学が獣医学教育を分担・補完し合い教育カリキュラムを開発・実施しているほか、大学間ネットワークを利用したリアルタイム双方向性遠隔授業を採用し、シラバスや時間割を統一することで、両大学に所属する学生が同一内容の 137 単位の専門教育科目を受講している。（中期計画 1-2-2-1）

- 先進医用ミニブタ開発を重点領域研究課題として、医用ミニブタ・先端医療開発研究センターを中心に研究を推進している。先進医用ミニブタ開発に関連して 171 件の論文発表を行っており、平成 23 年度にアジア移植学会で最優秀演題金賞及び銀賞を、平成 24 年度に国際移植学会で Mentor/Mentee 賞を受賞している。（中期計画 2-1-3-1）

- 学生の海外派遣に際して、平成 22 年度から学生海外研修支援事業等による経済的支援を実施するとともに、平成 26 年度から留学生との協働学習等、継続的な学びによるグローバル人材育成を目指す進取の精神グローバル人材育成プログラム等を実施している。これにより、海外へ留学した学生及び海外での研修に参加した学生数は、平成 22 年度の 162 名から平成 27 年度の 352 名へ増加している。（中期計画 3-3-1-2）

改善を要する点

- 学位の質保証に向け、各研究科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの見直しや学位論文審査基準の公開等の取組が行われている

るものの、各機関に求められる研究倫理教育について、一部の研究科では一般的な生命倫理教育が中心であるなど、十分にはなされていない。（中期計画 1-1-3-1）

<復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組>

- 東日本大震災に際し、全学及びボランティア支援センターが学内で義援金を募集し、日本赤十字社へ寄付した（平成 26 年 3 月の九次募集までの総額 1,820 万円）。また、保護者家庭の被災状況に応じて被災地出身学生への授業料免除等の支援を実施した。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、4項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学生主体による学生憲章の制定

中期目標（小項目）「「進取の精神」を有し、学士力を備えた人材を育成する。」について、学生及び教職員が参加した学生憲章ワークショップや学生が組織した学生憲章成案作成委員会による草案作成等を通じ、学生が中心となり、平成22年度に学生の行動指針として学生憲章を制定している。また、学生憲章の趣旨に則り、平成25年度から学生自らが企画・運営・実施する取組を支援する進取の精神チャレンジプログラムを実施している。（中期計画 1-1-1-1）

(特色ある点)

○地域志向科目の開講

中期目標（小項目）「「進取の精神」を有し、学士力を備えた人材を育成する。」について、平成26年度に組織見直しを含めた共通教育の改革方針を共通教育改革計画書としてまとめており、平成27年度には、同計画書と文部科学省の地（知）の拠点整備事業（COC）採択を踏まえ「鹿児島探訪—文化—」をはじめとする地域志向科目33科目を開講している。また、平成28年度の新入生全員には

防災、エネルギー等の 10 分野からなる選択必修科目「大学と地域」を履修すること等を決定している。（中期計画 1-1-1-2）

（改善を要する点）

○研究倫理教育の内容

中期目標（小項目）「知識社会を担う高度専門職業人や研究者等の育成をめざした大学院教育の質を向上する。」のうち、中期計画「大学院教育カリキュラムを整備・拡充するなど、大学院課程における学位の質を保証する方法を確立する。」について、学位の質保証に向け、各研究科のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの見直しや学位論文審査基準の公開等の取組が行われているものの、各機関に求められる研究倫理教育について、一部の研究科では一般的な生命倫理教育が中心であるなど、十分にはなされていない。（中期計画 1-1-3-1）

（2）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

（優れた点）

○山口大学との連携による共同獣医学部の設置

中期目標（小項目）「教育の質の向上を図る教育研究体制を整備する。」について、平成 24 年度に山口大学との連携に基づき共同獣医学部を設置しており、両大学が獣医学教育を分担・補完し合い教育カリキュラムを開発・実施しているほか、大学間ネットワークを利用したリアルタイム双方向性遠隔授業を採用し、シラバスや時間割を統一することで、両大学に所属する学生が同一内容の 137 単位の専門教育科目を受講している。（中期計画 1-2-2-1）

○獣医学教育の国際認証取得への取組

中期目標（小項目）「教育の質の向上を図る教育研究体制を整備する。」について、山口大学との共同獣医学部では、欧州獣医学教育認証機構（EAEVE）評価委員経験者による事前診断を受け、改善事項として指摘があった参加型臨床実習

時間の大幅増に対応するための教育課程改正、動物病院の施設整備等を行っている。また、北海道大学、帯広畜産大学、山口大学及び鹿児島大学による獣医学教育の国際認証取得に向け、平成 29 年度に EAEVE による公式事前診断を実施することを決定している。（中期計画 1-2-2-3）

○共同獣医学部における EAEVE の認証取得に向けた教育課程の改善

共同獣医学部において、平成 24 年度に山口大学との共同で当該学部を設置し、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、鹿児島大学では産業動物獣医学等、山口大学では伴侶動物獣医学等を特色とした相互補完型の教員配置を行い、EAEVE の認証取得を目標として教育課程の改善に取り組んでいる。

（現況分析結果）

（特色ある点）

○教育運営システムの強化

中期目標（小項目）「共通教育及び専門教育の運営システムを強化する。」について、平成 24 年度に、機能強化を図るため教育改革室に教務等部門、学生支援等部門及び入試等部門を設置し、科目ナンバリングや GPA 制度の実施等に取り組んでいる。また、共通教育改革計画書を踏まえ、教育センターの専任教員 10 名の採用を決定するなど、教育実施体制の整備・拡充による教育運営システムの強化に取り組んでいる。（中期計画 1-2-1-1）

（3）学生への支援に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、2 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(4項目)のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○先進医用ミニブタ開発の推進

中期目標(小項目)「国際水準の卓越した研究を推進する。」について、先進医用ミニブタ開発を重点領域研究課題として、医用ミニブタ・先端医療開発研究センターを中心に研究を推進している。先進医用ミニブタ開発に関連して171件の論文発表を行っており、平成23年度にアジア移植学会で最優秀演題金賞及び銀賞を、平成24年度に国際移植学会でMentor/Mentee賞を受賞している。

(中期計画 2-1-3-1)

(特色ある点)

○地域課題の解決を目指した研究の実施

中期目標(小項目)「各分野における多様な基礎的・基盤的研究を活性化する。」について、地域防災教育研究センター及び越境性動物疾病制御研究センターでは、防災教育や大規模火山噴火を想定した民間企業等の事業継続計画(BCP)策定への寄与、高病原性鳥インフルエンザウイルス H5N8 亜型例の診断等、地域課題の解決を目指した研究に取り組んでいる。(中期計画 2-1-2-1)

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(3項目)のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 地域を志向した教育・研究に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「地域を志向した教育・研究に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○自治体と連携・協働した課題解決への取組

中期目標(小項目)「地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。」について、平成26年度に設置したかごしまCOCセンターにおいて、連携自治体職員と大学教職員で構成される地域防災・医療等の5部会を中心に地域課題の収集や自治体と連携・協働した課題解決に取り組んでおり、水産業部会が支援した商品開発の取組が、平成27年度農林水産祭で内閣総理大臣賞を受賞している。(中期計画3-1-1-1)

(2) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(3) 国際化に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学生の海外派遣の推進

中期目標(小項目)「国際的に活躍できる人材を育成するための環境を整備する。」について、学生の海外派遣に際して、平成22年度から学生海外研修支援事業等による経済的支援を実施するとともに、平成26年度から留学生との協働学習等、継続的な学びによりグローバル人材育成を目指す進取の精神グローバル人材育成プログラム等を実施している。これにより、海外へ留学した学生及び海外での研修に参加した学生数は、平成22年度の162名から平成27年度の352名へ増加している。(中期計画3-3-1-2)

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
「進取の精神」を有し、学士力を備えた人材を育成する。		おおむね良好	
1-1-1-1	「進取の精神」を踏まえた「学生憲章」を策定し、アドミッション・ポリシーを再構築するとともに、全学的・系統的カリキュラムを整備・拡充する。	良好	優れた点
1-1-1-2	学士力を培う共通教育カリキュラム等の改革を推進する。	おおむね良好	特色ある点
1-1-1-3	各専門分野の特性を踏まえた、学士力を培う専門教育に取り組む。	おおむね良好	
1-1-1-4	各教育課程のディプロマ・ポリシーを策定するなど、学位の質を保証する方法を確立する。	おおむね良好	
地域社会の諸問題の解決に向けて、幅広い観点から取り組む人材を育成する。		おおむね良好	
1-1-2-1	島嶼、環境、食と健康等の全学横断的な教育コースを創設するなど、大学院教育体制を整備・充実する。	おおむね良好	
知識社会を担う高度専門職業人や研究者等の育成をめざした大学院教育の質を向上する。		不十分	
1-1-3-1	大学院教育カリキュラムを整備・拡充するなど、大学院課程における学位の質を保証する方法を確立する。	不十分	改善を要する点
グローバル化の進展に対応した、国際的に活躍できる人材を育成する。		おおむね良好	
1-1-4-1	幅広い国際的視野を育成する実践的な教育プログラムを実施する。	おおむね良好	
1-1-4-2	留学生に対する教育カリキュラムを充実し、国際的に貢献できる人材を育成する。	おおむね良好	
社会人を積極的に受け入れ、社会ニーズに対応できる人材を育成する。		おおむね良好	
1-1-5-1	教員免許状更新講習やリカレント教育等の社会人への教育プログラムを拡充する。	おおむね良好	
② 教育の実施体制等に関する目標		おおむね良好	
共通教育及び専門教育の運営システムを強化する。		おおむね良好	
1-2-1-1	「教育改革室」や「教育センター」等の企画立案機能を強化し、共通教育及び専門教育の実施体制を整備・拡充する。	おおむね良好	特色ある点
教育の質の向上を図る教育研究体制を整備する。		良好	
1-2-2-1	他大学等との連携や教育組織の見直しを行い、質の高い教育研究組織を整備・拡充する。	良好	優れた点

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
○	1-2-2-2	歯学部歯学科の入学定員削減に積極的に取り組む。	おおむね良好	
	1-2-2-3	獣医学教育の改善・充実を図るため、北海道大学、帯広畜産大学、山口大学との連携による教育体制を構築し、欧米水準の獣医学教育の実現に取り組む。	良好	優れた点
	1-2-2-4	「進取の精神」を有する人材を育成するために、FD活動等を充実し、教員の教育力向上に向けた取組を展開する。	おおむね良好	
	1-2-2-5	附属練習船及び附属高隈演習林を活用した教育ネットワークを構築する。	おおむね良好	
	生涯学習力を身につけるための、学習環境の整備を推進する。		おおむね良好	
1-2-3-1	附属図書館等学内共同教育研究施設の学習支援機能の強化と環境整備を行う。	おおむね良好		
③ 学生への支援に関する目標			おおむね良好	
充実したキャンパスライフ環境を整備する。			おおむね良好	
1-3-1-1	「学生何でも相談室」の充実や学生による学生のためのアドバイザー「平成郷中サポーター（仮称）」の体制を整備するなど、学習・生活支援を充実する。		良好	
1-3-1-2	学生及び留学生に対する経済・生活支援を充実する。		おおむね良好	
社会性・倫理観を涵養するボランティア活動を推進する。			良好	
1-3-2-1	社会に学ぶ体験教育の強化など、「ボランティア支援センター」を中心とした学生支援を拡充する。		良好	
学生の多様化に対応した心の健康への支援体制を充実する。			おおむね良好	
1-3-3-1	心のケアができる専門家の支援体制を整備するなど、「保健管理センター」を中心とした支援体制を拡充する。		おおむね良好	
社会の変化に応じた就職支援を推進する。			良好	
1-3-4-1	インターンシップ、キャリア教育の充実など、「就職支援センター」を中心とした就職支援体制を拡充する。		良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			良好	
地域的課題の解決を通じ、全人类的課題の解決に寄与する研究を推進する。			良好	
2-1-1-1	島嶼、環境、食と健康の研究領域を重点的に推進する。		良好	
各分野における多様な基礎的・基盤的研究を活性化する。			おおむね良好	
2-1-2-1	地域社会と連携し、地域的課題の解決をめざした研究を積極的に推進する。		おおむね良好	特色ある点

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
2-1-2-2	学内の研究課題のファイリング等を推進し、各分野の特徴に基づく研究基盤を整備する。	良好	
国際水準の卓越した研究を推進する。		非常に優れている	
2-1-3-1	将来有望な学内研究成果を拠点形成教育研究プロジェクトとして支援する。	非常に優れている	優れた点
研究成果を広く社会に還元する。		おおむね良好	
2-1-4-1	研究成果に関する情報の収集・整理を全学的に推進し、研究者総覧の公開など、研究成果の還元システムを整備する。	おおむね良好	
② 研究実施体制等に関する目標		おおむね良好	
学際的かつグローバルな研究の実施体制を整備する。		おおむね良好	
2-2-1-1	「国際島嶼教育研究センター（仮称）」を設置し、学際的かつグローバルな研究を推進する。	おおむね良好	
全学的な研究支援体制を整備する。		おおむね良好	
2-2-2-1	次世代を担う研究者等を支援する体制を整備する。	おおむね良好	
2-2-2-2	「フロンティアサイエンス研究推進センター」など、学内共同教育研究施設の機能を見直し、研究支援体制を拡充する。	おおむね良好	
(Ⅲ) その他の目標		良好	
① 地域を志向した教育・研究に関する目標		良好	
地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究を推進する。		良好	
3-1-1-1	「地域のための大学」として、全学的な教育カリキュラム・教育組織の改革を行い学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題（ニーズ）と大学の資源（シーズ）の効果的なマッチングによる地域の課題解決、更には地域社会と大学が協働して課題を共有しそれを踏まえた地域振興策の立案・実施まで視野に入れた取組を進める。	良好	特色ある点
② 社会との連携や社会貢献に関する目標		良好	
各部局等の特色を活かし、地域社会の活性化につながる地域貢献活動を推進する。		良好	
3-2-1-1	地域貢献を推進する「地域貢献推進センター（仮称）」を設置し、地域ニーズに基づく研究成果や社会サービスを提供する。	良好	
地域のリーダーとなる人材を育成し、地域の活性化に寄与する。		良好	
3-2-2-1	島嶼学、鹿児島環境学、焼酎学を推進し、かごしまルネッサンスアカデミー等を継続するとともに、有為な人材を積極的に育成する新たなプログラムを構築する。	良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
生涯学習に対する全学的な取組を推進する。		おおむね良好	
3-2-3-1	「生涯学習教育研究センター」の機能を強化するとともに、各部局等の特色を活かした生涯学習プログラムを実施する。	おおむね良好	
③ 国際化に関する目標		おおむね良好	
国際的に活躍できる人材を育成するための環境を整備する。		良好	
3-3-1-1	「北米教育研究センター」等の海外拠点の機能を強化するとともに、本学留学経験者等を組織化し、海外に教育研修拠点を形成する。	良好	
3-3-1-2	学生及び教職員の海外研修プログラムの充実や留学生の受入環境を整備するなど、学内における国際化教育環境を整備する。	良好	優れた点
島嶼、環境、食と健康等の国際的課題の解決に貢献する。		おおむね良好	
3-3-2-1	「国際島嶼教育研究センター（仮称）」を中心として、アジア・太平洋諸地域の国際学術交流拠点の機能を高める。	良好	
3-3-2-2	海外の学術機関との交流を深め、国際共同研究を積極的に推進する。	おおむね良好	

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	<p>第2期中期目標期間においては、獣医学教育の改善・充実を図ることを目指した計画を進めており、北海道大学、帯広畜産大学、山口大学との間でアクティブ・ラーニングが可能な自学自習支援システムを導入し、各大学の特色ある教育コンテンツを整備するなど、連携教育体制の強化に取り組んでいる。また、欧州獣医学教育認証機構（EAEVE）評価委員経験者による事前診断を受け、参加型臨床実習時間の大幅増に対応するための教育課程改正等を行ったほか、獣医学教育の国際認証取得に向け、平成29年度にEAEVEによる公式事前診断を実施することを決定している。</p>
-----	--